

用語	読み	内容
後刷(摺)	アスリ	既刊の版(版木)を以て後になって印刷すること、またその本。後刷本。後印本
* 印	イン	版木が実際に印刷された時点
裏打	ウラウチ	書物や文書の料紙が弱ったり、又、虫喰・汚損などになった場合に、補強のため裏側に別紙を張り合わせる事
奥書	オクガキ	書物の最末の後に書き記した文
改装	カイソウ	書物が最初に作られた時の装訂を後になってなおすこと。改装した本を「改装本」という
開版	カイバン	出版すること
* 型押し(空押し文様)	カタオン(カラオンモヨウ)	型を用い、押し付けて表面に浮き出させた凹凸の文様。押し、押し絵、押し出し、押し型、型押し、浮き、浮き出し・・・などと称され呼称が一定していない
角裂	カドギレ	袋綴の本の綴目の上下の角に、裂(ギレ)を糊附して飾りを兼ねて保護とするもの
* 刊	カン	版木の彫刻・校正が終わって全編刷了出版の時点(整版の場合)
刊記	カンキ	刊本(刻本)について出版の要項を附刻した表記。出版年時、出版地、出版者等を表示し、多くは巻末に附刻する
光悦本	コウエツボン	慶長年間、本阿弥光悦が具引き雲母摺等の美術工芸的な意匠を凝らした料紙を用い、自ら版下を筆写して木版印刷を行った版本をいう
行成表紙	コウセイヒョウシ	行成本。藤原行成好みと称し、公家の有職模様的一种、円くずしの紗綾形の模様を雲母摺にした薄色表紙を江戸の中期頃の通俗絵入読み物に用いてある。その表紙の附いた本を「行成本」と呼ぶ
古活字版(本)	コカツジバン(ホン)	文禄年間から寛永年間(正保・慶安までを含む)に亘る約半世紀間に出版された活字版を総称する
国書	コクショ	わが国人が著作編纂した書物。漢籍・洋書に対する語
小口	コグチ	冊子の形式の書物で、本文上下の切り口が見える部分。但し、上下のうち、主として下の小口をいう。小口の部分に書名・巻冊数などを表記する
五山版	ゴザンバン	鎌倉中期から南北朝を経て室町末期までの約二百数十年間に、鎌倉・京都の両五山を中心とした禅宗関係者の手に依って出版せられた書籍を総称している
紙縫(紙捻)	コヨリ	丈夫な和紙を細かく切り、左右の手指の先でよりをかけて巻き線状にしたもの。物を綴じるしるに用いる
* 地本	ジホン	江戸で出版された本。主として中本、小本の戯作や草双紙類をいう。上方下りの絵本に対していう
* 洒落本	シヤレボン	享保末(1736-)頃から化政期(1804-30)を過ぎる頃までに行われた戯作の一分野。遊里における一昼夜の遊びを通して、客と遊女およびそれを取り巻く諸人物の醜し出す滑稽な姿を、写實的に描写するものを中核とし、その周辺の戯文類を総称している
* 修	シュウ	版木に補訂の手が加わっていること
朱筆(朱書)	シュヒツ(シュショ)	朱筆で表記すること。多く本文に後から書き入れなどをする際、本文と区別して判読されるような朱筆を用いる
字様	ジヨウ	文字の書き様。文字の様式。書体
昌平坂学問所	シヨウヘイザカガクモンジョ	徳川幕府が儒学を学修させた官学。明治政府となり、その施設は官立大学の基となった
* 芯紙	シンガミ	表紙の補強材料あるいは芯地として用いられた、反故や漉き返しの紙
* 嵩山房(小林新兵衛)	スウザンボウ(コバヤシンペイ)	江戸の書物問屋。須原屋茂兵衛の暖簾内と思われるが、須原屋を称するよりは、小林新兵衛を名乗ることの方が多。新兵衛は荻生徂徠の愛顧を受け、徂徠学派の活動を背景に経営の基礎を固めた。家号嵩山房は徂徠の命名という

	整版	セイハン	活版に対していう。木版本印刷の最も普通のやり方。一枚の板(版)木に逆に印刷面を彫刻し、印刷の原版とするやり方
	蔵書印	ゾウシヨイン	書物に所蔵を表すために捺す印形。それを捺した印影(蔵書印記)
	題簽(箋)	タイセン	書物の表紙に貼付する細長い小紙片で、書名・巻数などを表記する
	丁	チョウ	枚・葉も同じ。和装本の各1枚(表裏二ページ分)
※	調書	チョウショ	目録事項を調査し、記載すること
	角書	ツガキ	冠称と同じ。本体の書名の上に添え書きした称呼
*	唐本	トウホン	舶載された漢籍のこと。和本、朝鮮本(韓本)に対する語
	綴糸	トジイト	書物を綴じるために用いる糸。古くは絹・麻を用い、江戸時代には普通木綿糸を多く用いた
*	中綴じ(下綴じ)	ナカヅジ(シタヅジ)	表紙を付けて本綴りする前に、紙捻(コリ)などを用いて背の部分に仮綴じを施すこと
	版(板)木	ハンギ	彫板。木版印刷に使用する木材
	版心	ハンシン	柱に同じ。袋綴の書物の中央折目に当たる細長い枠の部分
**	版面	ハンメン	印刷版の表面。また、書籍などの印刷物で一ページに印刷された印刷面をいう
***	平田篤胤	ヒラタ アツタネ	1776-1843 江戸時代後期の国学者。20歳で江戸に出、備中松山藩士平田篤穂の養子となる。本居宣長没後の門人を称する。儒教を批判し、尊王思想をとねえ、幕末の尊攘運動に影響をあたえた。著作に「古史伝」「古道大意」「霊能真柱」など
	仏書	ブツショ	仏典。広く仏教関係の書物をいう
	反故(反古)	ホコ	文書手紙など用事がすんでいらなくなった紙。又、書きかけてやめにした紙。その反故を使って別な内容を書写したりする。往時、紙が貴重であるからである
*	見返し	ミエシ	前表紙の裏。写本の場合は通常白紙であり、版本も早い時期にはそうであったが、江戸時代中期以降は見返しに書名・著者・版元などを印刷してタイトルページとする習慣が定着する
	無刊記本	ムカンキホン	何時何処で何人が出版したかの記載のない刊本
	木活(字)	モクカツ(ジ)	木製の活字。木活で印行した本を「木活字版」「木活字本」「木活字印本」などという
***	本居宣長	モトオリ ノリナガ	1730-1801 江戸時代中期-後期の国学者。堀景山に儒学をまなび荻生徂徠の学風や契沖の古典研究に啓発される。また武川幸順らに医学をまなび郷里で開業。かたわら国学を研究し、賀茂真淵に入門。古語の実証的分析をすすめ、日本独自「古道」をとねえた。著作「石上私淑言」「玉勝間」「古事記伝」など
*	四つ目綴じ	ヨツメヅジ	糸を用いて書物を綴じる和本・唐本の代表的な綴じ方のひとつ。漢語では四針眼訂法と称し、明朝綴じとも同じ。室町初・中期よりこの装訂法が起こり、以後写本・刊本を通じて主流となった
	和刻本	ワコクボン	わが国で出版した書物をいう。但し、この語は、漢籍の唐本に対して、わが国で再製した漢籍の版本を称するものである

無印『日本書誌学用語辞典』川瀬一馬著 雄松堂書店 1982より

*『日本古典籍書誌学辞典』井上宗雄[ほか]編著 岩波書店 1999より

**『日本国語大辞典』第2版 小学館国語辞典編集部編集 小学館 2000-2002より

***『日本人名大辞典』講談社 2001より

※和漢古典籍研究分科会で解説